

いのうけじゅうたく きゅういわたけじゅうたく おもや どぞう ながやもん どべい  
井上家住宅（旧岩田家住宅） 主屋、土蔵、長屋門、土塀

所在地：紀の川市中三谷字西馬場脇195他 登録基準：全て（一）

紀の川中流域の田園地帯に所在する農家住宅で、現在は参禅道場としても使用されている。敷地中央に主屋、北西隅に土蔵、南正面に長屋門が建ち、屋敷外周に土塀を巡らせる。

主屋は二階建、入母屋造、瓦葺で、大正5年（1916）頃に建設された近代和風建築である。内部は土間の西側に四室を田の字に並べ、更にその西側に座敷を接続させる。座敷は庭への眺望を確保するため、床の間に西面に、違棚を北面に分けて配置した特徴的かつ上質な造りである。大正前期建設の土塀は、外面に青石の小石を隙間なく貼り付けた独特の仕上げであり、江戸末期建設の土蔵や昭和45年（1970）建設の長屋門とともに屋敷構えを整えている。



主屋



土塀

きゅうせいかわこうとうじょがっこうどうそうかいかん こかわこうとうがっこうどうそうかいかん ようかん わかん  
旧制粉河高等女学校同窓会館（粉河高等学校同窓会館） 洋館、和館

所在地：紀の川市粉河字植田4600 登録基準：全て（一）

旧制粉河高等女学校は大正2年（1913）創立の県立女学校で、同窓会館は開校20周年を記念して建設された。同窓会館は学校行事や同窓会の集いの場のほか、かつては生徒が一週間程泊まり込み、炊事や掃除等の実習を行う家庭実習寮としても使用された。

洋館は木造二階建て、切妻造、赤い洋瓦葺の大屋根をもつ。和館は平屋建、宝形造、スレート葺で、洋館の東に接続する。いずれも昭和9年（1934）に建設され、縦長の上げ下げ窓が連続して並ぶ洋館と、和館が取り合う外観が特徴的である。洋館一階には応接間や食堂等があり、二階には三方に広縁が設けられた二間続きの和風の大広間がある。同窓会館は、令和4年に耐震補強や屋根葺替、活用に向けた設備改修がなされ、また内装の一部が復元された。

紀の川を見下ろす高台に建つ赤い三角屋根の同窓会館は、現在に至るまで使用され続け、歴史ある伝統校の象徴の一つとして親しまれている。



全景



洋館二階 大広間

あぜけしゅうたく おもや どうぐくら こめくら  
阿瀬家住宅 主屋、道具蔵、米蔵

所在地：有田郡湯浅町大字湯浅字中町535-1他 登録基準：全て（一）

湯浅町湯浅は醤油醸造を始めとした商工業の町として知られるが、漁網も特産品の一つであった。阿瀬家もかつて漁網製造業を営んだ家で、湯浅の市街地の中心部に位置する。

主屋は二階建、<sup>きりつまづくり</sup>切妻造、瓦葺で、江戸末期に建設された。<sup>なかまち</sup>中町通りに西面して建ち、現在の表構えは明治後期に続き間座敷が増築された際に整えられた。続き間座敷は透かし彫りの欄間や面皮柱の床柱を用いた上品な造りである。道具蔵と米蔵は、主屋の東側に並び建つ二棟の土蔵で、一連の屋根を架ける。いずれも二階建、<sup>きりつまづくり</sup>切妻造、瓦葺で、江戸末期に建設された。一階は<sup>たていた</sup>縦板張り、二階は漆喰塗で、装飾の少ない実用的な外観である。

これらの建造物は漁網製造業が醤油醸造に並ぶ湯浅の一大産業であった当時の様子を今に伝え、湯浅の市街地の歴史的景観の形成に大きく寄与している。



主屋



道具蔵

### 登録有形文化財（建造物）とは

文化財登録制度は、近代を中心とする多くの様々な文化財を保護するため、平成8年の文化財保護法改正によって導入された。届出制を基本とする緩やかな保護制度で、登録により規制に強く縛られることはなく、建造物の多様な活用を行いやすいことが特徴である。原則として建設後50年を経過した建造物のうち、一定の評価※を得たものが対象となり、全国で既に13,000件を超える建造物が登録されている。

※登録基準（一）国土の歴史的景観に寄与しているもの

（二）造形の規範となっているもの

（三）再現することが容易でないもの